「賤ヶ岳の七本槍　糟屋武則」

今回は、加古川が歴史の表舞台に登場する場面を紹介します。

秀吉が織田政権下の実権を確実にしたのが、天正 11（1583）年に現滋賀県長浜市で繰り広げられた賤ヶ岳の戦いです。羽柴秀吉（のちの豊臣秀吉）と織田家重臣柴田勝家が正面衝突したのがこの戦いです。その結果、秀吉は織田家中の権力を掌握することになり、関白秀吉へと上り詰めていくことになります。柴田勝家と結婚していたのが、信長の妹お市の方で、お市には前夫の浅井長政との間に茶々、初、江の３姉妹がいました。後に、長女茶々は秀吉の側室となり、秀吉の子秀頼の生母として豊臣政権に君臨します。ちなみに 2011 年ＮＨＫ大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」で江を演じたのが加古川出身の上野樹里さんでした。

その豊臣政権の確立に大きな貢献し、賤ヶ岳の戦いで大きな戦功を立てたのが、加古川城主の糟屋助左衛門武則です。いわゆる“賤ヶ岳の七本槍”といわれます。七本槍とされる他の武将は、福島正則、加藤清正、加藤嘉明、脇坂安治、平野長泰、片桐且元という歴史上著名なビッグネームの面々です。

天正５(1577)年、毛利氏討伐の軍議、いわゆる世にいう“加古川評定”で東播磨を支配する別所氏は秀吉と離反することになります。しかし、糟屋武則は黒田官兵衛（孝高）の説得で加古川城に戻ることになります。これによって、糟屋武則は三木城攻めの前哨戦「野口城攻め」で初陣を飾ることになります。糟屋武則は秀吉の晩年には、12,000 石を領することになります。慶長５（1600）年の関が原の戦いで石田光成の西軍に組みしたため、改易処分となりますが後に許され、徳川政権の旗本として召し抱えられることになります。

加古川城は、現在寺家町の称名寺となっています。加古川が秀吉によって歴史の表舞台に登場する名場面の一コマです。

ぶらり加古川第 30 号

平成 28 年６月